

地銀協レポート

vol. 12

2024.3.13



report1.

データから見るポストコロナの地域経済の姿

report2.

地方銀行と農業

CRITISは今年で20周年！データから何が見える？
～ポストコロナの地域経済の姿～ 2

地域の農業を支える地方銀行 8

協会ニュース 15

- 2024年度の事業計画を策定しました
- 中堅・中小企業の脱炭素経営促進に向けた支援ツールを作成しました
- 「地方創生事例集」に記事を追加しました
- ～中小企業DX待ったなし！～手形・小切手の利用廃止の取り組みが進んでいます
- 地元のために働きたいみなさん！「先輩行員の声」をぜひご覧ください

<Pick up!> 地方銀行は日本の伝統工芸を支援しています！ 18

統計グラフ 19

地方銀行における投融資を通じた気候変動問題への取り組み



Cover photo — No.003

百五銀行 内宮前支店

三重県伊勢市宇治中之切町46番地



江戸時代にはその参拝が庶民の憧れとなり、現代でも国内外を問わず多くの人を訪れる格式高い神社、伊勢神宮。125の宮社で成り立つ伊勢神宮の中で最も尊いとされる内宮には、天照大御神が祀られています。この内宮へとかけられた宇治橋からまっすぐ続く“おはらい町通り”にあるのが、百五銀行の内宮前支店です。

建物は、周囲の景観に調和するよう、伊勢伝統の切り妻屋根を備えた和風建築となっています。看板の文字には、以前使われていた古い書体を採用し、店内には、国の伝統工芸品に指定されている伊勢型紙を使った装飾を施すなど、随所に工夫が見られます。さらに細かいところに注目してみると、屋根の瓦に同行の行章（マーク）が入っています。この行章は、創立時、魚問屋出身で第二代頭取（当時の支配人）の岡嘉平治によって創作されたものです。行章を構成している○と×は、魚問屋で使われている符丁で、○が百、×が五を表しています。

また、同支店は、2023年10月、営業車として、電気自動車を配備しました。歴史や文化を伝えていくとともに、環境保全にも配慮した店舗づくりを目指しています。



①百五銀行内宮前支店外観。②1919（大正8）年に伊勢神宮の「現金取扱方」の命を受けて以降、内宮前支店に掲げていた看板。③伊勢型紙を使用した装飾。④百五銀行の行章が入った瓦。⑤内宮前支店で導入した電気自動車。※写真はすべて百五銀行提供。